

# 令和6年用えだまめ病害虫防除基準

※えだまめと乾燥秘伝（大豆）では、農薬は同じでも使用方法、時期が異なる場合がある。  
 注意事項に登録の違いを掲載したので、使用前に確認すること。  
 ※殺虫剤を散布する場合は、訪花昆虫に対する薬剤ごとの安全使用基準を徹底する。

発行：J A さ が え 西 村 山  
 さ が え 西 村 山 野 菜 振 興 協 議 会

病害虫重点防除	＜えだまめの場合＞																			
	時 期	は	種	前	開	花	前	開	花	7	日	後	開	花	15	～	20	日	後	
	殺 虫 剤	クルーザー FS30	}	のいずれかを塗沫処理する。	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}
殺 菌 剤	クルーザー MAXX	スミチオン乳剤 オルトラン水和剤																		
					(Zボルドー) (フェスティバルC水和剤)	(バリダシン液剤5) (ランマンフロアブル)	ゲッター水和剤													

## 【害虫防除】

作業	RAC コード	薬剤名	使用 方法		使用時期 収穫前日数	使用回数	対 象 害 虫										注 意 事 項	
			倍 率 (薬用/水10ℓ)	散布量(10a)			タネバエ	フタスジ メハムシ	アブラ ムシ類	カメムシ類	ハスモン ヨトウ	マメシン クイガ	ダイズサヤ タマハエ	ハダニ類	ネキリ ムシ類			
播 種 前	4 A, 12, 4	クルーザーMAXX	乾燥種子 1kg 当たり原液 8ml を塗沫処理する。	播種前	1 回	●	●	●							●	1. ハト、キジバトにも登録がある。 1. クルーザーMAXX、クルーザーFS30の他に薬剤を処理する際は、先にこれらを処理し、よく乾燥させてから使用する。 ☆クルーザー剤の総使用回数は1回とする。		
	4 A	クルーザーFS30	乾燥種子 1kg 当たり原液 6ml を塗沫処理する。	播種前		●	●	●						●				
	M 3	キヒゲンR-2フロアブル	乾燥種子 1kg 当たり原液20ml を塗沫処理する。	播種前		●												1. カラス、ハトにも登録がある。 2. チウラム剤処理済みの種子にはキヒゲンR-2フロアブルを使用しない。 3. ハトの慣れ、周囲のえさの有無により効果にむらのあることがあるので注意する。
	1 B	ダイズジン粒剤5	10a 当たり 6kg 作付前：全面土壌混和又は作条土壌混和する。作物生育中：作条処理して軽く覆土する。	30日前		5 回 ※生育期の処理は4回以内	●								※●		※ネキリムシ類防除の場合は、土壌表面散布とする。 1. コガネムシ類幼虫にも登録がある。	
は 播 種 前 直 前	1 A	バイデール粒剤	10a 当たり 30kg を全面土壌混和又は10a 当たり 6kg を作条土壌混和する。	播種時又は定植時	1 回											【ダイズシストセンチュウ】 1. 連作を避ける。 2. 同じ薬剤の連用をしない。		
		ラグビーMC粒剤 ネマキック粒剤	10a 当たり 20kg を全面土壌混和する。	播種時又は定植時	1 回													
は 播 種 時 直 前	1 B	カルホス微粒剤F	10a 当たり 6kg を土壌表面散布土壌混和処理する。	播種時又は定植時	1 回										●	1. ネキリムシ類の産卵を抑えるため、播種前から除草対策の徹底を図る。 2. タネバエの使用時期は「播種時」のみの登録のため注意する。		
	4 A	アトマイヤー1粒剤	10a 当たり 3kg を播溝土壌混和する。	播種時	1 回	●												
生 育 期	1 B	ネキリエースK	10a 当たり 3kg を土壌表面株元処理する。	21日前	2 回以内										●	1. 大豆での登録は、使用時期が播種時～本葉2葉期である。 1. ウコンノメイガ、シロイチモジマダラメイガにも登録がある。		
		スミチオン乳剤	1,000倍(10ml)	100～300ℓ	21日前	4 回以内			●	●	●	●						
		オルトラン水和剤	1,000倍(10g)	100～300ℓ	21日前	3 回以内			●	●	●	●						
		マラソン乳剤	2,000倍(5ml)	100～300ℓ	7日前	3 回以内			●	●	●	●	●					
		マラソン粉剤3	1,000倍(10ml)	100～300ℓ	7日前	3 回以内			●	●	●	●	●					
	3 A	トレボンDL	10a 当たり 4kg 散布する。	14日前	2 回以内			●	●	●	●	●				1. シロイチモジマダラメイガにも登録がある。 ☆エトフェンプロックスを含む剤(トレボン粉剤DL、トレボン乳剤、トレボンMC)の総使用回数は2回以内とする。 1. ウコンノメイガ、シロイチモジマダラメイガにも登録がある。		
		トレボンMC	1,000倍(10ml)	100～300ℓ	14日前	2 回以内			●	●	●	●						
		トレボン乳剤	1,000倍(10ml)	100～300ℓ	14日前	2 回以内			●	●	●	●						
	4 A	アグロスリン乳剤	2,000倍(5ml)	100～300ℓ	7日前	3 回以内			●	●	●	●				【マメシンクイガ対策】 豆の肥大期に2～3回薬剤防除を行うとよい。 1. 大豆では使用時期が収穫7日前までである。 ☆ジノテフランを含む剤(スタークル顆粒水溶剤、スタークル粉剤DL)の総使用回数は2回以内とする。		
		ダントツ水溶剤	2,000倍(5g)	100～300ℓ	前日	2 回以内			●	●	●	●						
		スタークル顆粒水溶剤	2,000倍(5g)	100～300ℓ	7日前	2 回以内			●	●	●	●						
		スタークル粉剤DL	3,000倍(3.3g)	100～300ℓ	7日前	2 回以内			●	●	●	●						
	21 A	ダニトフロアブル	1,000倍(10ml)	150～300ℓ	7日前	1 回							●		1. 異常な高温が続くと多発する。 2. 大豆には登録がない。 1. ウコンノメイガにも登録がある。 2. 大豆では使用時期は収穫7日前/使用回数は2回以内である。			
	28	プレバソフロアブル5	4,000倍(2.5ml)	100～300ℓ	3日前	3 回以内					●	●						
		ヨーバルフロアブル	5,000倍(2ml)	100～300ℓ	前日	3 回以内					●	●						
30	プロフレアSC	2,000倍(5ml)	100～300ℓ	前日	2 回以内			●		●	●			1. ウコンノメイガにも登録がある。 2. 大豆には登録がない。 1. 大豆では使用時期は収穫7日前までである。				
UN	プレオフロアブル	1,000倍(10ml)	100～300ℓ	前日	2 回以内					●								

## 【病害防除】

作業	RAC コード	薬剤名	使用 方法		使用時期 収穫前日数	使用回数	対 象 病 害						注 意 事 項
			倍 率 (薬用/水10ℓ)	散布量(10a)			紫斑病	茎疫病	菌核病	べと病	炭汚損症	葉焼病	
播 種 前	4 A, 12, 4	クルーザーMAXX	乾燥種子 1kg 当たり原液 8ml を塗沫処理する。	播種前	1 回	●	●						1. 黒根腐病にも登録がある。 1. 密植を避け、風通しをよくする。 2. 茎疫病の発生がみられるところでは、連作を避け、圃場の排水を図る。
	M 3	キヒゲンR-2フロアブル	乾燥種子 1kg 当たり原液20ml を塗沫処理する。	播種前		●							
生 育 期	2	ロブラール水和剤	1,000倍(10g)	100～300ℓ	30日前	3 回			●				1. 大豆では使用時期は収穫21日前までである。 1. 斑点細菌病にも登録がある。 2. 水稲(穂ばらみ期～出穂期)に薬害があるので、飛散しないように注意する。 1. 大豆では使用時期は収穫7日前/使用回数は2回以内である。 1. 大豆では使用時期は収穫7日前/使用回数は2回以内である。 1. 大豆では1,000倍/使用時期は収穫14日前/使用回数は2回以内である。 1. 大豆では使用時期は収穫7日前である。
	M 1	Zボルドー	500倍(20g)	100～300ℓ	—	—				●			
	40, M 1	フェスティバルC水和剤	600倍(16.6g)	100～300ℓ	前日	3 回		●			●		
	11	アミスター20フロアブル	2,000倍(5ml)	100～300ℓ	前日	3 回					●		
	10, 1	ゲッター水和剤	1,500倍(6.6g)	100～300ℓ	7日前	3 回	●					●	
	U 18	バリダシン液剤5	500倍(20ml)	100～300ℓ	7日前	3 回						●	
21	ランマンフロアブル	1,000倍(10ml)	100～300ℓ	3日前	3 回					●		1. 大豆では使用時期は収穫7日前である。	
40	レーバフロアブル	1,500倍(6.6ml)	100～300ℓ	7日前	3 回					●			

☆イネクサチオンを含む剤(カルホス微粒剤F、ネキリエースK)の総使用回数は5回以内とする。(粉剤及び粉粒剤の播種時の処理は合計1回以内、粉剤及び粉粒剤の定植時は合計1回以内、粉剤の土壌表面散布は1回以内、粒剤の土壌表面株元処理は2回以内)  
 ただし、乾燥秘伝として収穫する場合は、同一成分の総使用回数が2回以内なので注意する。  
 ☆トリフルラリンを含む剤(トレファノサイド粒剤2.5、トレファノサイド乳剤)の総使用回数は2回以内とする。(全面土壌散布は1回以内、畝間土壌散布は1回以内)  
 ☆合成ピレスロイド剤は(アグロスリン乳剤、トレボン粉剤DL、トレボンMC、トレボン乳剤)蚕・魚類に対する毒性が特に強い。また、抵抗性害虫出現防止のため総使用回数は2回以内とする。  
 ☆農薬の使用にあたっては、使用回数に加え、有効成分ごとの総使用回数も定められているので遵守する。

## 除草剤使用基準(えだまめ)

	薬 剤 名	RAC	10 a 当 たり 薬 量 / 散 布 量	使用時期・使用方法	使用回数	適用雑草	特 性	
							特	性
土 壌 処 理 剤	トレファノサイド乳剤	3	200～300ml/100ℓ	は種後出芽前全面土壌散布	1 回	1年生雑草	・ツクサ科、カヤツリグサ科、アブラナ科、キク科雑草には効果がない。 ・砂質土壌では薬害が出やすいので使用しない。	
	トレファノサイド粒剤2.5		4～6kg/10a	は種後出芽前全面土壌散布	1 回	1年生雑草		
	クリアターナ乳剤	15,3,5	500～800ml/70～100ℓ	は種直後(雑草発生前)全面土壌散布	1 回	1年生雑草		
茎 葉 処 理 剤	ナブ乳剤	1	150～200ml/100～150ℓ	雑草生育期(イネ科雑草3～5葉期)(収穫14日前まで)雑草茎葉散布又は全面散布	1 回	1年生イネ科雑草	・イネ科作物には薬害があるので注意 ・遅効性で枯死するまでに7～10日必要 ・スズメノカタビラ、広葉雑草に効果がない。	
	バスタ液剤	10	300～500ml/100～150ℓ	雑草生育期：は種前、は種後出芽前、定植5日前まで雑草茎葉散布	3回以内	1年生雑草	・畦間処理の場合は、収穫前日まで作物にかからないように飛散カバーを用いて雑草茎葉散布する。	
	ポルトフロアブル	1	200～300ml/100ℓ	雑草生育期(イネ科雑草3～8葉期)(収穫14日前まで)雑草茎葉散布又は全面散布	1 回	1年生イネ科雑草	・完全に枯死するまで約1週間を要する。 ・スズメノカタビラ、広葉雑草には効果がない。	
ラウンドアップマックスロード	9	200～500ml/50～100ℓ	耕起前又は出芽前まで(雑草生育期)雑草茎葉散布	3回以内(大豆では2回以内)	合計3回以内	1年生雑草	・専用ノズル(ラウンドノズル)を使用し、散布ムラのないようにする。 ・展着剤は加用しない。 ・散布液が作物へ飛散しないように注意する。 ・散布時の雑草の草丈や茎葉面積が大きいほど効果が確実になるので、散布前に雑草の地上部を刈り払わない。 ・処理後1時間以内の降雨は効果を低下させるので注意する。 ・処理後、効果の発現に2～7日を要するので、誤って再散布しない。	
			収穫前日まで(雑草生育期：畦間処理)雑草茎葉散布	2回以内				